

# 指宿での農業に魅力を感じて

## ―海がある暮らし―

「海が近くにある生活っていいですね。今、はまっているのは魚釣り。指宿に来て、毎日が楽しいです」。そう話すのは、昨年1月、妻の香菜さんと二人の故郷の熊本県から移住し、農家として新たな生活をスタートさせた岩本康徳さん。

## ―移住のきっかけ―

熊本で介護福祉士として10年間働いていた岩本さん。「夫婦共働きで収入的には安定していたけど、不規則で責任も重い介護の仕事を、この先ずっと続けていけるか不安でした」と、心境を話します。そんな中、強くなっていったのが



岩本康徳さん・香菜さん  
桃果ちゃん（川口）

## ―指宿で農業にチャレンジしたい―

という思いでした。香菜さんの両親は平成20年に指宿にUターンして農業を営んでおり、岩本さん夫婦も年に3〜4回指宿を訪れていました。実エンドウの収穫など農作業を手伝う中で、自然と向き合う農業に魅力を感じたといいます。

「自分が育った阿蘇と違って、温暖な指宿では年間を通して露地でも野菜が作れると聞いていました。オクラやソラマメなど全国的にも有名で、指宿での農業には大きな魅力を感じました。海と山に囲まれた、こんなに環境の良いところで生活したい」と、新たな可能性を感じて、移住を決意したといいます。

## ―消防団のすすめ―

移住して間もないころ、近くの畑の先輩に誘われ、消防団に入団しました。「消防団に入って、たくさんの人を知り、たくさん仲間ができました。地域の人たちに自分たち家族のことも知ってもらえるようになりました。農業で分からないことや人手が必要な時など、相談できるのはありがたいですね。本当に心強いです。移住する人には、ぜひ消防団



## ―地域の「員」仲間―

「初めは、年配の人が話す方言がわからずに戸惑うことも多かったですね」と話す岩本さん。今では、消防操法大会や地域の伝統芸能「成川神舞」にも積極的に参加するなど、地域の「員」として欠かせない存在になっています。

## ―毎日が充実しています―

「農業はまだまだ心配が尽きませんが、生活のリズムも良く、病気になることが少なくなりましたね。気持ちもとても充実しています。安心して子育てができる環境もうれしいですね。これから楽しみです」と目を輝かせていました。

## ―指宿で子育てしたい―

平成26年4月に福岡県から移住してきた池田修平さん。生活環境など、子どもの教育や安全面で不安を抱えている中で、妻の美穂さんの「ふるさと指宿で子どもをのびのびと育てたい」との強い希望もあって、指宿への移住を決意したそうです。

## ―移住してみて―

「田舎に住むと生活費は安上がりだと思っていたけど、現実には甘くないですね」と、福岡での暮らしと生活費はあまり変わらないといいます。それでも「同じ値段でも、ここではおいしく安全なものを食べられますね。産地も気にしなくなりました。不便な面も多いですが、お金には換えられない『安心感』と『満足感』がありますね」と話します。

## ―期待以上の教育環境―

教育環境について「郷土学習や防犯・防災メールも充実していて、安心して学校に預けることができます。スポーツ少年団も礼儀やあいさつがしっかりしていて、良い意味で上下関係がなく、家族以外のコミュニケーションができました」と話します。「横断歩道を渡った子どもたちが、振り返って運転手に一礼する姿に感動しました」と、子どもの教育環境に満足しているといいます。また「空が広いですね。きれいな

## ―移住者に対する懐の深さ―

移住したところは、人付き合いでも遠慮が先に立って身構えてしまい、地元の人の方言もよく理解できなかったといいます。「私の様子を察して、地域の人が優しく別の言葉で言い直してくれたら、積極的に話し掛けてくれて、自然と打ち解けることができました。よそ者に対して柔軟で懐の深い地域だと感じますね」と話す池田さん。今では地域の祭りや司会を務めたり、公民館や子ども会など、地域活動に駆けぬぐる毎日を送っています。「指宿が大・大・大好きなんです。指宿がもっと元気になるためのお手伝いしたいですね」と熱く思いを語りました。



池田修平さん  
美穂さん・隼さん  
(二月田)

# 子どもをのびのび育てたい